

2023（令和5）年度

地域連携センター年報

津市立 三重短期大学

目 次

地域連携センター事業を振り返って

I	令和5年度 地域連携事業の概要	・・・	1
1	生涯学習機会の提供		
(1)	オープンカレッジ	・・・	2
(2)	地域連携講座	・・・	7
(3)	みえアカデミックセミナー2023	・・・	8
(4)	出前講座	・・・	9
(5)	プログラミング講座	・・・	12
(6)	講座開催一覧	・・・	13
(7)	国家試験対策講座	・・・	15
(8)	科目等履修生制度	・・・	16
2	高等学校等との連携		
(1)	高大連携校との高大連携事業	・・・	17
(2)	高大連携校文章作成講座	・・・	18
(3)	高大連携協定調印	・・・	18
3	産学連携の推進		
(1)	株式会社三十三銀行及び株式会社三十三総研との産学連携	・・・	19
(2)	三重短期大学シーズ集「みえたんの種」等の活用	・・・	23
(3)	ヴィアティン三重女子バレーボールクラブとの連携協定締結	・・・	24
4	市政との連携		
(1)	政策研究・研修	・・・	25
(2)	市政との連携講義「自治体行政特論」	・・・	28
(3)	審議会、委員会委員への参画	・・・	30
5	地域の大学との連携		
(1)	三重大学生物資源学部との連携	・・・	36
(2)	コンソーシアムみえとの連携（単位互換）	・・・	36
6	学生による地域連携		
(1)	地域連携サポーター制度	・・・	37
(2)	津市消防団学生機能別団員	・・・	37
(3)	三重短期大学大津波想定避難訓練	・・・	38
(4)	美化デー	・・・	39
(5)	榊原の地域振興を考える会との連携	・・・	39
II	資料		
1	施設開放	・・・	40
2	三重短期大学地域問題研究所の研究一覧	・・・	42
3	令和5年度三重短期大学出前講座 テーマ一覧表	・・・	46

本学は、津市が設置する公立短期大学として、従来から「地域に開かれた大学」を目指してきた。大学の理念にも「地域貢献の理念」を掲げて、「津市が設置する公立短期大学として、地域の諸問題や社会の要請に対応した特色ある研究の推進を図り、その成果を積極的に地域に還元するとともに、高等教育に対する地域のニーズに的確に応え生涯教育の振興に寄与することを通じて、地域社会に貢献する」ことを大学の責務として謳っている。この地域貢献の理念を実現するため、2008年4月に、地域連携及び地域貢献事業を所掌する総合窓口として「地域連携センター」を設立し、教員のセンター長の他に担当の事務職員が配置された。

「地域連携センター」は、設置目的のなかに、「三重短期大学は、少子高齢化時代の福祉の充実、生涯学習ニーズの高まり、情報化の高度展開など地域の抱える課題を常に念頭において、地域社会が求める人材の養成ばかりでなく、産学官連携、自治体の政策課題等の研究、地域の生涯学習との連携などに取り組むことを通じて、地域社会や住民との連携・交流を重視し、市民文化の向上と地域・産業の活性化に貢献することをめざしてまいります」と宣言するとともに、「生涯学習機会の提供」、「高等学校との連携」、「産学官連携の推進」、「市政との連携」、「地域の大学との連携」、「学生ボランティア活動の支援」を所掌事業として掲げている。

生涯学習のための教育プロジェクトとして、本学では「オープンカレッジ」と「地域連携講座」を開講する他、「出前講座」も実施している。「オープンカレッジ」は、本学の教員が講師となって市民の方に大学の講義を気軽に体験していただくことを狙いとして、7月から11月の各第一土曜日に2講座ずつ開催する連続講座である。「地域連携講座」は、学外から講師を招き、本学の教員がコーディネーターとなって、地域の身近な話題を市民の方に専門家が分かりやすく解説することを狙いとして、年2回の開催をしている。「出前講座」は、本学教員の研究や社会活動の中から講演可能なテーマを事前に設定し、市民の要望に応じて、教員が出向いて講演・解説などを行うものである。概ね15名程度以上の参加が見込めるグループ・団体が開催する三重県内の集まりを対象としている。いずれの講座も、年々受講者が増えており、市民の間に定着してきたと言える。

本学は、2008年3月に三重県立亀山高等学校と初めて高大連携協定を締結したのち、2010年3月に三重県立津商業高等学校と、同6月に三重県立相可高等学校と、2012年1月に三重県立みえ夢学園高等学校、三重県立久居高等学校と、そして2022年3月に三重県立津東高等学校と、そして2024年3月新たに三重県立四日市農芸高等学校と高大連携協定を締結し、現在協定締結校は7校となっている。一方、株式会社三十三総研（旧三重銀総研）から資金を得て、三十三総研と本学の共催で、学生を対象とした「小論文コンクール」を2007年から毎年開催している。2016年度より、「小論文・作品コンクール」と名称を変更し、レシピやデザインでの応募もできるようになり、いずれの学科の学生も参加しやすい形態にしたことから、年々応募数が増加してきている。「政策研究・研修」は、津市など地方自治体等が抱える諸課題をテーマに、自治体職員と本学教員が共に調査・研究し、関係諸課題の解決に当たるとともに、より戦略的な政策の推進が図れる職員の政策形成能力を養うことを目的としており、連携センター設立当初から実施している事業である。

2015年度に文科省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に三重大学の事業が採択され、本学もこの事業協力機関として参加するとともに、2016年度には、三重県内の13高等教育機関と県は、県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、人口減少の抑制及び地域の活性化を実現するため、「高等教育コンソーシアムみえ」が設立され、本学も一定の役割を果たしている。

このように地域連携センターの活動は拡大しているが、同時に教員の負担も増している。不断に活動内容を見直し、教員の負担を調整しながら、地域の期待に応えられるよう活動を発展させていきたい。

2024年8月

I 令和5年度 地域連携事業の概要

地域連携センターを中心に、本学の地域連携の6つの柱のもと、令和5年度は次のような取組を進めた。

三重短期大学地域連携センター

本学では、1952（昭和27）年の開学以来、地域問題の研究や公開講座の開講など地域に開かれた大学づくりを進めてきたが、2008（平成20）年、この地域への貢献、地域との連携を組織的かつより積極的に進めるため地域連携センターを設置し、センター長と事務局に専任職員を配置するとともに、学内には地域連携委員会を立上げた。

その際、本学が当面実施すべき地域連携事業の取組を次の6つに整理した。

(1) 生涯学習機会の提供

市民のニーズを把握し、学科の特性に応じて教養的なものからより専門的なものまで多様な地域連携講座や公開講座などの教育プロジェクトを提供するなど生涯学習機会の提供を図る。

(2) 高等学校等との連携

より高いレベルの教育を受けることを希望する高校生の希望に応えるとともに、高校生の学習意欲の喚起や進路選択に資するため、高大連携講座など三重県内の高等学校等との相互の協力・連携事業を推進する。

(3) 産学連携の推進

教育内容をより充実し、社会の要請に応えることとするため、企業やNPOとの連携を推進するとともに、企業や団体などのニーズに即した受託研究等を推進する。

(4) 市政との連携

津市や地域の自治体が抱える政策課題について、教員と自治体職員が共に調査・研究を行い、課題解決と自治体職員の人材育成を目指す「政策研修」を実施するなど津市が直面している諸課題に対応し、市の発展に資するため、市政のシンクタンクとしての機能の強化を図る。

(5) 地域の大学との連携

教育・研究活動の一層の向上を図り、また、更なる地域社会の発展、貢献のため、地域の大学間の学術交流や協力・連携を強化する。特に、市の4つの大学、短期大学の特性を活かした連携を進めることを目指す。

(6) 学生による地域連携

地域課題を常に意識した教育を追求し、ボランティア活動の促進、フィールドワークの拡充などを通して地域問題への関心の喚起により将来の地域リーダーの育成を目指す。

1 生涯学習機会の提供

本学では、平成19年度から津市元気づくり事業の一環として地域連携講座を開講、また平成24年度より、本学の講義を多くの方に体験していただくことを目的に「オープンカレッジ」、「出前講座」を開設した。そして平成30年度からは、小中学生向けに「プログラミング講座」を開設した。

さらに、三重県生涯学習センターによる県下高等教育機関の連携事業「みえアカデミックセミナー」にも積極的に参加し、教育研究の成果を市民に還元している。

また、本学の通常講義の中から受講したい科目を自由に選択して学習することができ、所定の成績を修めると単位認定される科目等履修生制度も多く利用があった。

その他、地域貢献として、三重県内の免許取得者を対象としたリカレント教育講座と位置づけ、本学卒業生および一般市民を対象とした「社会福祉士国家試験対策講座」「栄養管理士国家試験対策講座」を開講した。

(1) オープンカレッジ

市民の方が大学の講義を気軽に体験できるよう、オープンカレッジを開設した。

本学教員がアラカルト形式にて実施し、全10講義のうち8講義以上を受講した受講者に修了証書を発行した。

ア 三重県の活性化策を考える

- ① 開催日時 令和5年7月1日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 三重県においても人口減少などの問題が深刻化してきました。こうした状況下で、三重県でも本県を活性化させる取組みが活発になってきました。そこで、本講義では、その状況を説明した上で、三重県の活性化策について考察します。
- ④ 参加者数 49名
- ⑤ 担当教員及び講師 法経科 教授 大畑智史



イ 私たちの「地域共生社会」を考える

- ① 開催日時 令和5年7月1日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 地域には様々な事情のある人々が暮らしています。国は、高齢者や障がい者などの別ではなく「地域共生社会の実現」という方針で政策を進めています。一体この「地域共生社会」とは何なのか、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。
- ④ 参加者数 49名
- ⑤ 担当教員及び講師 生活科学科 講師 田中武士



ウ 実質的な企業の税負担について

- ① 開催日時 令和5年8月5日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 コロナ禍によりさまざまな財政出動がありました。さらに防衛費増強のため、増税が避けられない状況にあります。本講義では、企業課税の観点から、企業の税負担について考えます。どのような課税が公平か、みんなで考えてみましょう。
- ④ 参加者数 49名
- ⑤ 担当教員及び講師 法経科 教授 田中里美



エ 私たちは何をどれだけ食べたらいいの？

- ① 開催日時 令和5年8月5日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 必要な食品や栄養素等の摂取量は性別や年齢によって異なります。日本人の食事摂取基準などから目標量を確認し、また現在の三重県の食状況からどのような問題があるのかを考えます。
- ④ 参加者数 58名
- ⑤ 担当教員及び講師 食物栄養学科 教授 駒田亜衣



オ 被選挙権について考える

- ① 開催日時 令和5年9月2日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 被選挙権とは、一般的に「選挙に立候補するための権利」として理解されていますが、制度上は年齢制限などの様々な制約があり、だれもが自由に行使できるようにはなっていません。本講座では、この被選挙権の権利性について考えてみたいと思います。
- ④ 参加者数 49名
- ⑤ 担当教員及び講師 法経科 講師 鎌塚有貴



カ 食卓のたんぱく質科学

- ① 開催日時 令和5年9月2日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 食品中の五大栄養素のひとつであるたんぱく質について基本事項を解説します。また、食卓における活用として食品たんぱく質の変性要因と調理例を紹介します。
- ④ 参加者数 58名
- ⑤ 担当教員及び講師 食物栄養学科 助教 飯田津喜美



キ 言葉を処理するコンピュータの仕組み

- ① 開催日時 令和5年10月7日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 ChatGPTのようなAIチャットボットの出現に象徴されるように、現在のコンピュータは言葉を巧みに処理できるようになってきています。現在のコンピュータが言葉を処理する仕組みについて紹介します。
- ④ 参加者数 50名
- ⑤ 担当教員及び講師 生活科学科 准教授 笠浩一郎



ク 子どもの福祉を守る法の話

- ① 開催日時 令和5年10月7日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会 場 41番教室
- ③ 概 要 最近の報道では、家庭や福祉施設等での子どもの人権侵害事例を目にすることが少なくありません。そこで、子どもの福祉を守るために法はどのような制度を用意しているのかについてお話し、子どもの福祉について皆さんと考えてみたいと思います
- ④ 参加者数 59名
- ⑤ 担当教員及び講師 法経科 教授 古畑淳



ケ 『フランケンシュタインー現代のプロメテウス』を読み直す

- ① 開催日時 令和5年11月4日（土）午後1時30分～午後3時
- ② 会 場 41番教室
- ③ 概 要 「ガリバー」や「透明人間」、「タイムマシン」など、タイトルが固有名詞化しているイギリス小説は少なくありません。本講座では、そうした小説の一つである『フランケンシュタイン』を読み直し、「モンスター」と「フランケンシュタイン」について考えます。
- ④ 参加者数 51名
- ⑤ 担当教員及び講師 法経科 教授 村井美代子学長



コ 少年法の現在

- ① 開催日時 令和5年11月4日（土）午後3時15分～午後4時45分
- ② 会場 41番教室
- ③ 概要 2000年以降数度にわたって改正されてきた少年法が、現在どのような位置にいるのか、検証したいと思います。
- ④ 参加者数 52名
- ⑤ 担当教員及び講師 法経科 教授 楠本孝



（2）地域連携講座

ア 『住まい』としてみた老人ホームの基礎知識

- ① 開催日時 令和5年8月26日（土）午後2時00分～午後4時00分
- ② 会場 41教室
- ③ 内容 人生100年時代。老人ホームも長きにわたり「住む家」になるかもしれません。本講座にて施設を「住みこなす」ための部屋の形・大きさや家具の置き方について学び、施設を選ぶ参考になればと思います。
- ④ 参加者数 64名
- ⑤ 講師 毛利志保（日本福祉大学 健康科学部 准教授）
- ⑥ 担当教員 生活科学科 教授 木下誠一

イ 地方自治とは何か-持続可能な地域づくりに向けて-

- ① 開催日時 令和5年9月9日（土）午後2時00分～午後4時00分
- ② 会場 41教室
- ③ 内容 コロナ禍を受け、改めて地方自治体の役割が問い直されています。地方自治とは何か、その本質を学ぶとともに、持続可能な地域づくりのために主権者である私たちには何が求められるのかを探ります。
- ④ 参加者数 42名
- ⑤ 講師 岡田知弘（京都橘大学 経済学部 教授）
- ⑥ 担当教員 法経科 准教授 川上哲

(3) みえアカデミックセミナー2023

より高度な学習機会の提供を目指すとともに、県内の各高等教育機関の研究活動を紹介し、高等教育機関への理解を深めてもらうことを目的として、夏季期間に県総合文化センターを会場に各高等教育機関独自の研究テーマを発表する「公開セミナー」と、地域のニーズに応じて高等教育機関が地域に出向く「移動講座」がある。

平成8年に県内4年制大学による「三重6大学公開講座」としてスタートし、平成16年から、県内全ての短期大学、高等専門学校も参画し15の高等教育機関による公開セミナーを「みえアカデミックセミナー」としてリニューアルした。(※担当者会議資料(三重県生涯学習センター作成)等から)

- ① 開催日時 令和5年8月19日(木) 午後1時30分～午後3時20分
- ② 会 場 三重県総合文化センター レセプションルーム
- ③ 内 容 講演 演題 ヨハンナ・シュピーリ『ハイジ』における学び
- ④ 概 要 世代を超えて知られるテレビアニメ「アルプスの少女ハイジ」の原作小説をご紹介します。アニメを見てスイスの雄大な自然に憧れた方も多いと思いますが、約140年前に書かれた原作「ハイジ」はそれだけにとどまらず、現代の我々に様々な示唆を与えてくれます。今回は「学び」という視点を中心に原作を読みたいと思います。
- ⑤ 参加者数 54名
- ⑥ 担当教員 法経科 准教授 今本幸平



(4) 出前講座

本学教員の研究や社会活動のなかから講演可能なテーマを事前に設定し、要望に応じて地域に出向き、講演・解説などを行う出前講座を2012（平成24）年度に開設した。（内容は「資料」の令和5年度三重短期大学出前講座テーマ一覧表参照）

ア 自分はどんな性格なの？パーソナリティ心理学

- ① 開催日時 令和5年6月17日（土）午後2時00分～午後3時30分
- ② 会場 英心高等学校桔梗が丘校舎
- ③ 参加者数 155名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 高橋彩

イ 健康づくりのための家庭料理を学ぼう

- ① 開催日時 令和5年6月22日（水）午後1時40分～午後3時30分
- ② 会場 四日市農芸高等学校
- ③ 参加者数 18名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 助教 飯田津喜美

ウ ビタミンとミネラルの話

- ① 開催日時 令和5年6月27日（火）午前9時30分～午前11時30分
- ② 会場 村主公民館
- ③ 参加者数 12名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 教授 橋本博行

エ いろいろな食中毒と予防法

- ① 開催日時 令和5年7月12日（水）午後4時10分～午後5時10分
- ② 会場 三重県身体障害者総合福祉センター
- ③ 参加者数 20名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 教授 橋本博行

オ 女性の各ライフステージに必要な栄養について

- ① 開催日時 令和5年8月21日（日）午前10時00分～午前11時30分
- ② 会場 パナソニック EW 社津工場
- ③ 参加者数 30名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 助教 服部知美

カ 健康のための運動と食事

- ① 開催日時 令和5年9月13日（水）午後1時30分～午後3時10分
- ② 会場 片田公民館
- ③ 参加者数 40名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 准教授 相川悠貴

キ 競技力向上のための栄養

- ① 開催日時 令和5年10月5日（木）午後4時00分～午後5時00分
- ② 会場 海星高等学校
- ③ 参加者数 26名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 准教授 相川悠貴

ク 選挙権について

- ① 開催日時 令和5年10月12日（木）午後2時30分～午後3時30分
- ② 会場 伊賀市西条公民館
- ③ 参加者数 15名
- ④ 担当教員 法経科 講師 鎌塚有貴

ケ ロコモを調べてロコモを予防

- ① 開催日時 令和5年10月26日（木）午前9時30分～午前11時30分
- ② 会場 松阪公民館（マーム）
- ③ 参加者数 30名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 講師 杉野香江

コ 健康のための運動と食事

- ① 開催日時 令和5年11月23日（木祝）午前10時00分～午前11時30分
- ② 会場 みえ市民活動ボランティアセンター アスト津3階
- ③ 参加者数 30名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 准教授 相川悠貴

サ 食事をバランスよく食べよう！

- ① 開催日時 令和5年12月6日（水）午後1時30分～午後3時30分
- ② 会場 中央公民館
- ③ 参加者数 40名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 教授 阿部稚里

シ 行政のデジタル化

- ① 開催日時 令和6年1月9日（火）午後3時00分～午後4時30分
- ② 会場 津税務署
- ③ 参加者数 30名
- ④ 担当教員 法経科 准教授 川上哲

ス 腸内細菌叢とは？

- ① 開催日時 令和6年1月20日（土）午前10時00分～午前11時30分
- ② 会場 橋北公民館 アスト津
- ③ 参加者数 15名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 助教 福安智哉

セ メタボリックシンドロームの現状と食生活による予防

- ① 開催日時 令和6年1月30日（火）午後1時30分～午後2時30分
- ② 会場 津地方・家庭裁判所
- ③ 参加者数 25名
- ④ 担当教員 食物栄養学科 教授 阿部稚里

ソ ワークルールと権利意識

- ① 開催日時 令和6年2月7日（水）午後4時10分～午後5時10分
- ② 会場 三重県身体障害者総合福祉センター
- ③ 参加者数 20名
- ④ 担当教員 法経科 准教授 西川昇吾

タ 知っておきたい相続に関するルール

- ① 開催日時 令和6年3月6日（水）午前10時00分～午前11時15分
- ② 会場 白寿会館
- ③ 参加者数 35名
- ④ 担当教員 法経科 講師 照井遥瑛

チ 自分はどんな性格なの？パーソナリティ心理学

- ① 開催日時 令和6年3月19日（火）午後12時30分～午後1時15分
- ② 会場 桜木記念病院
- ③ 参加者数 40名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 高橋彩

(5) プログラミング講座

平成30年度より、小学校4年生から中学校2年生までを対象に、Scratchを用いた初心者向けプログラミング講座を開設している。なお本講座は、児童・生徒を対象とした講座であることから新型コロナウイルス感染症拡大の恐れに対してより慎重な対応が必要と考えられるため中止していたが、令和5年5月5類感染症への移行に伴い、今年度より再度実施することとなった。

- ① 開催日時 令和5年12月3日（日）午前9時30分～午後0時30分
- ② テーマ ビデオモーションセンサーで「モグラたたき」をつくろう！
- ② 会場 情報処理演習室
- ③ 参加者数 7名
- ④ 担当教員 生活科学科 准教授 笠浩一郎



(6) 講座開催一覧

区分	テーマ	開催日	会場	参加者 (人)
オープン カレッジ	三重県の活性化策を考える	7月1日(土)	41番教室	49
	私たちの「地域共生社会」を考える	7月1日(土)	41番教室	49
	実質的な企業の税負担について	8月5日(土)	41番教室	49
	私たちは何をどれだけ食べたらいいの？	8月5日(土)	41番教室	58
	被選挙権について考える	9月2日(土)	41番教室	49
	食卓のたんぱく質化学	9月2日(土)	41番教室	58
	言葉を処理するコンピュータの仕組み	10月7日(土)	41番教室	50
	子どもの福祉を守る法の話	10月7日(土)	41番教室	59
	「フランケンシュタイン-現代のプロメテウス」を読み直す	11月4日(土)	41番教室	51
	少年法の現在	11月4日(土)	41番教室	52
地域連携講座	「住まい」としてみた老人ホームの基礎知識	8月26日(土)	41番教室	64
	地方自治とは何か-持続可能な地域づくりに向けて-	9月9日(土)	41番教室	42
みえアカデミックセミナー	ヨハンナ・シュピーリ「ハイジ」における学び	8月19日(土)	三重県文化会館 レセプションルーム	54
	自分はどんな性格なの？パーソナリティ心理学	6月17日(土)	英心高校 桔梗が丘校	155
	健康づくりのための家庭料理を学ぼう	6月22日(木)	四日市農芸高校	18
	ビタミンとミネラルの話	6月27日(火)	村主公民館	12
	いろいろな食中毒と予防法	7月12日(水)	三重県障害者総合福祉センター	20

出前講座 (高大連携 事業を除く)	女性の各ライフステージに 必要な栄養について	8月21日(月)	パナソニックエレクトリックワークス社	30
	健康のための運動と食事	9月13日(水)	片田公民館	40
	競技力向上のための栄養	10月5日(木)	海星高校	26
	選挙権について	10月12日(木)	伊賀市西条公民館	15
	ロコモを調べてロコモを予防	10月26日(木)	松阪公民館	30
	健康のための運動と食事	11月23日(木祝)	アスト津みえ市民活動ボランティアセンター	30
	食事をバランスよく食べよう！	12月6日(水)	中央公民館	40
	行政のデジタル化	1月9日(火)	津税務署	30
	腸内細菌叢とは？	1月20日(土)	アスト津橋北公民館	15
	メタボリックシンドロームの現状と食生活による予防	1月30日(火)	津地方・家庭裁判所	25
	ワークルールと権利意識	2月7日(水)	三重県障害者総合福祉センター	20
	知っておきたい相続に関するルール	3月6日(水)	白寿会館	35
	自分はどんな性格なの？パーソナリティ心理学	3月19日(火)	桜木記念病院	40
出張講義 (高大連携 事業)	重量認知差試験、棒反応試験	11月7日(火)	相可高等学校	38
	製菓実習(相可教員)	12月5日(火)	三重短期大学	46
	製菓実習(相可教員)	12月6日(水)	三重短期大学	47

（７）国家試験対策講座

令和３年度より、国家試験受験を希望する本学卒業生を対象に、受験対策や専門分野の知識の向上を目的とした「管理栄養士国家試験対策講座」「社会福祉士国家試験対策講座」を開講した。本学を希望する高校生等に対し、実務経験により管理栄養士及び社会福祉士免許取得を目指す卒業生をサポートする取り組みを実施紹介することで、より本学に関心を持ってもらうことも開講する目的の一つでもある。また、地域貢献として、三重県内の免許取得者を対象としたリカレント教育講座にも位置付けられる。

ア 管理栄養士国家試験対策講座

- ① 開催日時 令和５年９月２９日(金)～１１月１０日(金)

午後５時５０分～午後７時２０分、午後７時３０分～午後９時００分

- ② 会 場 三重短期大学 １２教室

- ③ 受講カリキュラム

日程	受講者数	科目名	講義内容	講 師
９月２９日 (金)	１１	人体の構造と機能及	①生化学	相川悠貴
	１１	び疾病の成り立ち	②解剖生理学・病態学	相川悠貴
１０月１３日 (金)	１２	基礎栄養学・	①基礎栄養学	杉野香江
	１２	応用栄養学	②応用栄養学	杉野香江
１０月２７日 (金)	１２	臨床栄養学	①臨床栄養学Ⅰ	石橋智奈美
	１０		②臨床栄養学Ⅱ	石橋智奈美
１１月１０日 (金)	１２	食べ物と健康	①食品学各論・食品衛生学	橋本博行
	１２		②公衆衛生学	阿部稚里

イ 社会福祉士国家試験対策講座

- ① 開催日時 令和５年９月８日(金)～１０月６日(金)

午後５時５０分～午後７時２０分、午後７時３０分～午後９時００分

- ② 会 場 三重短期大学 演習室１

- ③ 受講カリキュラム

日程	受講者数	講義内容	講 師
９月８日 (金)	８	①心理学	高橋彩
	５	②公的扶助論	北村香織
９月２２日 (金)	８	①障害者福祉論	北村香織
	８	②権利擁護と成年後見制度	北村香織
９月２９日 (金)	５	①人体の構造と機能・疾病	武田誠一
	７	②社会理論と社会システム	武田誠一
１０月６日 (金)	６	①社会福祉論・地域福祉論	田中武士
	６	②社会保障論	田中武士

(8) 科目等履修生制度

科目等履修生制度は、通常講義の中から受講したい科目を自由に選択して学習することができ、所定の成績を修めると単位認定される制度で、本学では平成8年度より実施している。

満18歳以上を対象に、前・後期で受講生を募って書類審査と面接で選抜する。科目等履修生になると図書館等の施設が本科生と同様に使用可能となる。ただし、入学検定料と1単位当たりの費用が必要となる。

令和5年度の科目等履修生は、前後期あわせて7名が受講した。

受講科目は下表のとおり英語講読などの語学系科目から法経科、生活科学科の専門科目まで幅広く選択された。

受講者は、会社等に勤めながら自分のキャリアアップのため知識を得ようとする方や現在の職や趣味などを更に深めようと関係する科目を履修される方、また、資格取得に備え所要の単位を取得される方など志願理由は様々であった。

(前 期)

科 目	単位	人数
歴史学	2	1
心理学	2	1
自然と科学	2	1
経営管理論	2	1
社会福祉論 I	2	1
社会保障論 I	2	1
発達心理学	2	1
環境倫理学	2	1

(後 期)

科 目	単位	人数
美学	2	1
介護概論	2	1
心理学概論	2	1
民事訴訟法	4	1
労働法	4	1
行政法	4	1
国際法	4	1
国際関係論	2	1

(通 年)

科 目	単位	人数
英語講読	2	1

2 高等学校等との連携

本学では、より高いレベルの教育を受けたいと願う高校生の希望に応えるとともに、高校生の学習意欲の喚起や進路選択に資するため、高等学校との相互協力や連携事業を推進する「高大連携」を、地域連携事業のひとつの柱に位置づけている。

本年度は、三重県立四日市農芸高等学校と新たに高大連携協定を締結した。また、連携協定を締結している三重県立相可高等学校との「高大連携」の取組を実施した。

また、高大連携校との繋がりを強化する地域連携事業として高大連携協定締結校（津東、久居、津商業、亀山、相可、みえ夢学園）を対象とした「文章作成の技法と実践」文章作成講座を本学にて実施した。

(1) 高大連携校との高大連携事業

高大連携校と、それぞれの協定に基づき、次の事業を行った。

ア 相可高等学校出前講座（会場：相可高等学校）

- ① 日 時 令和5年11月7日（火）午前8時40分～午前10時30分
- ② 講 師 食物栄養学科 准教授 相川悠貴
- ③ 内 容 重量認知差実験、棒反応実験
- ④ 対 象 相可高等学校食物調理科1年生37名

イ 相可高等学校高大連携大学見学（会場：三重短期大学）

- ① 日 時 令和5年11月7日（火）午前9時00分～午後12時00分
- ② 場 所 三重短期大学
- ③ 内 容 大学見学
- ④ 対 象 食物栄養学科1年生37名、教員1名

ウ 相可高等学校との高大連携講座（会場：三重短期大学）

- ① 日 時 令和5年12月5日（火）午前10時30分～午後1時30分
- ② 場 所 三重短期大学 調理実習室（15教室）
- ③ 講 師 相可高等学校 園部かしこ先生
- ④ 内 容 調理学実習Ⅱ 製菓講座 フルーツロール
- ⑤ 対 象 食物栄養学科1年生46名

- ① 日 時 令和5年12月6日（水）午前10時30分～午後1時30分
- ② 場 所 三重短期大学 調理実習室（15教室）
- ③ 講 師 相可高等学校 園部かしこ先生
- ④ 内 容 応用栄養学実習 製菓講座 フルーツロール
- ⑤ 対 象 食物栄養学科2年生47名

(2) 高大連携校対象文章作成講座

- ① 日 時 令和5年8月21日(月) 午前9時00分～午後12時00分
令和5年8月25日(金)
- ② 講 師 法経科 准教授 浅野和也
- ③ 場 所 三重短期大学 校舎棟 12教室
- ④ 内 容 「文章作成の技法と実践」文章作成講座
- ⑤ 対象校 高大連携協定締結校(津東、久居、津商業、亀山、相可、みえ夢学園)
- ⑥ 受講者 15名

(3) 高大連携協定調印

今年度新たに三重県立四日市農芸高等学校との高大連携協定を締結し、調印式を行った。

ア 協定締結式

- ① 日 時 令和6年3月28日(木) 午後3時00分～
- ② 場 所 三重短期大学 演習室1
- ③ 出席者 四日市農芸高等学校 校長 中田直人
三重短期大学 学長 村井美代子

イ 協定の概要

- ① 教育の連携
- ② スポーツ栄養サポート
- ③ 学生・生徒間の交流
- ④ その他



3 産学連携の推進

平成19年1月、本学と株式会社三重銀行（現・株式会社三十三銀行）及び株式会社三重銀総研（現・株式会社三十三総研）は、学術研究の振興とその成果の地域社会への活用並びに組織運営に関する協働を推進するために産学連携を強化し、相互の発展及び地域の発展に貢献することを目的とする「産学連携に関する包括協定」を締結した。

今年度も、この協定に基づき、学生を対象とした小論文・作品コンクールを引き続き開催したほか、三十三総研より講師を招いた「企業論（起業論）」開講等の連携事業を実施した。

またシーズ集「みえたんの種」を活用し本学の地域連携の取組みの周知、広報に努めた。

(1) 株式会社三十三銀行及び株式会社三十三総研との産学連携

産学包括協定に基づき、次の事業を実施した。

ア 三重短期大学・三十三総研主催小論文・作品コンクール

株式会社三十三総研における地域貢献、本学における教育研究、及び地域貢献の推進を目的に、小論文・作品コンクールを実施した。

① 趣旨

三重短期大学と三十三総研の地域貢献を目的とする産学連携推進事業の一環として、学生の新鮮な知性・感性を活かした小論文・作品コンクールを実施した。

② テーマ

ダイバーシティを認め合う社会へ～SDGsの目指す理想と現実～

③ 応募資格

三重短期大学在学生（科目等履修生を含む）。共同執筆による応募も可

④ 応募規定

- ・ 応募は1人（共同執筆の場合は1グループ）1作品のみ
- ・ 日本語で書かれた未発表のものに限る
- ・ 文字数は4,000字程度

⑤ 募集期間

令和5年7月3日～令和5年12月1日

⑥ 選考委員

委員長	三重短期大学	学長	村井美代子
委員	三重短期大学	法経科 教授	石原洋介
委員	三重短期大学	法経科 准教授	川上哲
委員	三重短期大学	食物栄養学科 教授	駒田亜衣
委員	三重短期大学	生活科学科 講師	田中武士
レシピ部門審査	三重短期大学	食物栄養学科 教授	阿部稚里
レシピ部門審査	三重短期大学	食物栄養学科 准教授	相川悠貴
デザイン部門審査	三重短期大学	生活科学科 教授	小野寺一成

⑦ 応募作品（タイトル名）

投資によってジェンダー平等へ

少子化対策と多様性

私らしく生きる-「若い」の視点から見えてきた多様性を認め合う社会-

職場のダイバーシティ～「心理的安全性」の観点から～

グローバル化におけるミスコミュニケーションについて

子宮頸がん予防の啓発のために～HPV ワクチンと検診の重要性～

あけぼのタクシー事件＝最 1 小判昭 62.4.2 労判 506 号 20 頁を通して考える

東京ディズニーリゾートの魅力と SDG s

子どもの食物アレルギーの対処方法

ダイバーシティを認めあう社会に向けて

日本と海外の労働環境の違い

電通事件＝最 2 小判平 12.3.24 労判 779 号 13 頁を通して考える

子ども食堂の開催情報の周知方法について

"貧困世帯の子どもたちに本当に必要な教育支援とは

～沖縄県と三重県の貧困対策の比較から～"

多様性と内発的発展～島根県隠岐郡海士町の事例から見る現実と可能性～

男性の育児休暇を当たり前の風潮にするには

日本の企業における男女賃金格差の現状と解消するための課題について

海藻食を取り入れたやさしく、健康な食環境について

クラウドファンディングによる多様性の実現

"日本はダイバーシティにおける女性の社会進出についてどう向き合うべきなのか

～ジェンダー先進国と日本を比較しながら考える～"

男女平等は実現するのか～男性犠牲のうえで成り立つ平等～

食の多様性を認め合う～食事をみんなで楽しむために～

労働の女性差別問題をなくしてダイバーシティを認め合う社会へ

地球市民の責任

ダイバーシティを認め合う社会に向けて～私たちにできる「作る責任 使う責任」～

大学夜間学部の存在意義～三重短 2 部で学ぶということ～

生活保護制度を考えるー鈴鹿市の受給者の車両保持問題をきっかけにー

フェアトレードタウンの多様性 SDG s 達成に向けた取組についての考案と提案

三重の食材を使った 男の完全栄養食

血管ゼリー

完全食プレート

シロモチ君ベーグル

Grow Flowers ～理解ある社会へ～

ウェブアクセシビリティに対応した三重短期大学の HP のデザイン案

(全 36 作品)

⑧ 選考結果

【最優秀賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
高山 未有	日本の企業における男女賃金格差の現状と解消するための課題について	法経科第1部 法律コース	小論文

【学長賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
小林 純菜 辻本 歩	シロモチ君ベーグル	食物栄養学科	レシピ

【優秀賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
田口 萌夏	日本はダイバーシティにおける女性の社会進出についてどう向き合うべきなのか～ジェンダー先進国と日本を比較しながら考える～	法経科第1部 法律コース	小論文
星 もえ	職場のダイバーシティ ～「心理的安全性」の観点から～	法経科第1部 法律コース	小論文

【新人賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
石田 幸椰	多様性と内発的発展～島根県隠岐郡海士町の事例から見る現実と可能性～	法経科第2部	小論文

【佳作】

氏名	タイトル名	学科	部門
稲葉 あい	海藻食を取り入れたやさしく、健康な食環境について	食物栄養学科	小論文
畑中 嵐世	男性の育児休暇を当たり前の風潮にするには	法経科第2部	小論文
田村 望 濱村 志乃	血管ゼリー	食物栄養学科	レシピ

【奨励賞】

氏名	タイトル名	学科	部門
佐伯 彩花	食の多様性を認め合う ～食事をみんなで楽しむために～	食物栄養学科	小論文

⑨ 表彰式

日 時 令和6年1月26日（木）午後2時00分～午後3時00分

場 所 三重短期大学 校舎棟4階41教室

表彰者 三重短期大学学長 村井美代子

株式会社 三十三総研 代表取締役社長 一色孝三

講 評 津市 政策担当参事(兼)政策課長 梅本和嗣
司 会 三重短期大学法経科 教授 石原洋介



(表彰式)

イ 三十三総研より講師を招いた講義

① 講義科目 企業論（起業論）

（専修第二（経済・経営）分野 前期 火曜日5－6限目 受講者数17名）

② 講 師 山川敏

（株式会社三十三総研 コンサルティング部リーダー 主任コンサルタント）

③ 講義のねらい

株式会社三十三総研から講師を招き、日々の企業コンサルから得た経験をもとに、会社を運営していくうえで大切なこと、経営革新の考え方や起業の視点について、社会人になってからも役立つような実践的な内容で講義いただいた。

④ 授業内容

- ・ 未来を予測し仮説をたてる (1)起業の意義と外部環境把握①
- ・ 同 (2)外部環境把握②
- ・ 同 (3)外部環境把握③と仮説①
- ・ 同 (4)外部環境把握④と仮説②
- ・ お客様の満足を考える
- ・ 事例研究 (1)新製品の考察
- ・ 事例研究 (2)新サービスの考察
- ・ 起業家の成功要因を考える：3つの側面からの考察
- ・ 自分研究：自分の特長、やってみたいこと
- ・ 経営理念の立て方：基本理念と行動理念
- ・ マーケティングと経営戦略 (1)意義
- ・ 同 (2)勝つための仕組みづくり
- ・ 決算書の見方と資金繰り (1)B/S と P/L の仕組み
- ・ 決算書の見方と資金繰り (2)資金繰表の作成と検証
- ・ ビジネスプランの作成 等

(2) 三重短期大学シーズ集「みえたんの種」等の活用

教員の研究業績や社会的活動を載せたシーズ集「みえたんの種」や地域連携センターのホームページを活用して、本学の地域連携の取組みの周知、広報に努めた。

※ 法経科石原洋介教授（地域連携センター長）の内容

石原 洋介（いしはら ようすけ）

職 名	法経科 教授
授業科目	金融論、国際経済論
キーワード	グローバル化、国際金融、フェアトレード、日本の金融政策
研究テーマ	グローバリゼーションにおける国際金融システムの不安定化に関する研究 日本銀行の異次元金融緩和の持続可能性 フェアトレードによる貧困削減 TPP による国民生活への影響
研究テーマの 応用例	グローバリゼーションと経済格差、それを解決する手段としてのフェアトレード FTA、TPP 締結と日本経済の今後 金融緩和はデフレ脱却に対し有効な金融政策なのかの研究
最近の研究業績	[論説] ・「TPP が脅かす食の安全」三重法経 第 149 号 2017 年 ・「TPP に対する危惧～SPS の観点から～」三重法経 第 143 号 2014 年 ・「サブプライム危機が示した新自由主義金融の限界」三重法経 第 141 号 2012 年 ・「チェンマイ・イニシアティブのマルチ化について」三重法経 第 139 号 2011 年 ・「グローバル金融危機の中の東アジア経済」唯物論と現代44 2010 年 ・「東アジアにおける金融安定化への課題」地研年報 第 13 号 2008 年 [共著] ・ 櫻谷勝美・野崎哲哉編『新自由主義改革と日本経済』三重大学出版会 2008 年 第 10 章
最近の社会的活動	[講演] ・ 三重短期大学オープンカレッジ「日銀の金融政策の限界～異次元の金融緩和の功罪～」2021 年 7 月 3 日 ・ 久居高校出前講座「フェアトレードの挑戦」2020 年 1 月 29 日（久居高校） ・ 三重短期大学オープンカレッジ「TPP はなぜ不成立になったのか」2017 年 10 月 7 日
メッセージ	経済学とは人々を幸せにできる経済の仕組みを追求する学問だと思います。今日、世界的な格差拡大をもたらした新自由主義経済に対抗する経済学の構築は急務であり、自分のテーマとしています。

(3) ヴィアティン三重女子バレーボールクラブとの連携協定

平成30年6月に津市との間で締結した包括連携協定に基づき株式会社ヴィアティン三重ファミリークラブはバレーボールを始めとするスポーツ活動を通じた取組を進めており、2021年の三重とこわか国体を迎え、国体女子バレーボール開催地である津市地域と一体となったスポーツ振興に係る連携を進めることから、三重短期大学とヴィアティン三重女子バレーボールクラブは、スポーツ活動を通じ、教育・人材育成及び地域の活性化を推進することを目的に連携協定を締結した。

※とこわか国体は新型コロナウイルス感染症蔓延防止措置により中止となった。

連携協定締結にあたり、校舎棟1階玄関正面に「ヴィアティン三重女子バレーボール」応援掲示スペースの設置を行い、選手パネル・ユニフォームの年度更新などを行っている。

令和5年度は、体育館を使用するにあたり、三重短期大学バレーボール部とラインテープの合同修復作業、学生会主催夏祭り（サマフェス）にブース参加していただくなどの交流を図った。



(応援ボード設置)



(ラインテープ合同修復作業)

4 市政との連携

本学では、従来から津市立の公立短期大学として地域振興等の諸課題について、教員の各種審議会等への参画や市教育委員会主催の市民向け講座への参加を通じて、専門的な知識や経験を活用し、市政との連携を進めてきた。

今年度は、市政の諸課題について本学教員と職員が共に調査、研究する「政策研究・研修」を一つのテーマで取り組んだほか、津市立の特性を活かし、津市を一つの事例として、市長をはじめ職員によるリレー講義で自治体行政の現状や課題等について考える「自治体行政特論」を引き続き開講した。

(1) 政策研究・研修

① 目的

地方分権が進められるなか、地方財政の厳しさや市民意識の高まりを受け、津市をはじめ多くの地方自治体で「経営型」の行政運営、効率的行政運営が進められている。

一方、大学など高等教育機関では、従来からの教育、研究に加え、地域への貢献、地域との連携が強く求められるようになり、三重短期大学においても、地域のシンクタンク機能の充実を図ることを目指し市政との連携を地域連携の一つの柱としている。

政策研究・研修は、津市など地方自治体等が抱える諸課題をテーマに、当該職員と本学教員が共に調査・研究し、関係諸課題の解決にあたりとともに、より戦略的かつ先進的な政策事務事業等の推進が図れる職員の政策形成能力を養うことを目的とする。

② 研修テーマ、指導教員及び研修生

テーマ 食物摂取頻度調査法を用いた栄養調査実施による三重県との比較および各自治体の課題の抽出

指導教員 食物栄養学科 教授 駒田亜衣

研修生

NO	氏 名	所属
1	藤本理恵	亀山市 市民文化部 市民課 医療年金 G
2	竹尾綾	亀山市 市民文化部 市民課 医療年金 G
3	小坂聡子	亀山市 健康福祉部 健康政策課 健康づくり G
4	井川裕子	津市 健康福祉部 健康づくり課

③ 研修期間

令和5年9月25日から令和6年3月26日まで

④ 主な研修内容（「研修計画」参照）

研修生が、指導教員による指導の下、先進地視察を含む具体的施策への反映を視野に入れた調査・研究を行い、その成果を取りまとめた。

⑤ 研究・研修計画

研究テーマ	食物摂取頻度調査法を用いた栄養調査実施による 三重県との比較および各自治体の課題の抽出
研究テーマ の趣旨	■研究テーマの概要と目的 これまで三重県では5年ごとに大規模な「秤量法」による栄養調査が実施され、三重の健康づくり基本計画の評価を行ってきた。この結果は、県内地域ごとの比較も可能であったため、各自治体においては、そのデータを使用して国や県と比較することで課題を明らかにし、市町の健康づくり推進に取り組むことができた。しかし、令和4年の栄養調査はこれまでの方法とは異なり「食物摂取頻度調査法」で実施された。調査用紙は無記名で回収されたため居住地の情報は得られず、県内地域による比較が不可能となったことが問題として挙げられた。そこで、各自治体でも県内で実施された方法と同様の調査が実施できれば、国や県と比較し地域の実態が得られ、政策に役立てることができると考えた。 本政策研究・研修では、希望する自治体で「食物摂取頻度調査法」を用いた調査を実施し、得られたデータを三重県の結果と比較することで各自治体の問題点や課題を明らかにすることを目的とする。 ■研究計画（予定） 7月 オリエンテーション（政策研究の概要テーマの説明と今後の予定確認等） 7月～8月 栄養調査の実施準備（食物摂取頻度調査法についての確認、対象者の抽出、データ入力方法の練習等） 9月～11月 栄養調査の実施 回収データの入力作業 12月～1月 得られた解析結果の整理と検討・考察 2月 各自治体の課題と今後の健康づくり計画の推進について 成果報告会

⑥ 成果報告会

- ・日 時 令和6年3月26日（火）午後2時00分～午後3時00分
- ・場 所 三重短期大学 管理棟2階 演習室1
- ・内 容 研修目的等の説明、成果発表、研修内容に関する質疑応答
- ・主な参加者
研修生及び担当教員、
亀山市健康福祉部健康政策課長、亀山市市民文化部市民課長、
三重短期大学学長、事務局長、地域連携センター長、学生部長 ほか



(2) 市政との連携講義「自治体行政特論」

津市を一つの題材に地方行財政に対する学生の理解を深めることを目的として、津市の市長をはじめ課長級等の職員のリレー講義形式で実施する「自治体行政特論」を平成12年度より開講しており、令和元年度は次の内容で実施した。

当講座は、教室での講義だけでなく市議会の傍聴なども実施して地方行政の理解を深めている。

- ① 講義科目 自治体行政特論 (共通科目 前期 水曜日9-10限)
- ② 担当教員 法経科 教授 石原洋介
- ③ 受講者数 38名

回	実 施 日	講義科目 (キーワード) 等	講 師 等
1	4月12日 (水)	オリエンテーション、 津市の概況、防災について	法経科 教授 石原 洋介 危機管理部 【防災室 特命参与 竹内 主信】
2	4月19日 (水)	津市の財政について	政策財務部 【財政課 財政課長 若林 麻衣子】
3	4月26日 (水)	津市シティプロモーション	政策財務部 【広報課 シティプロモーション担当副主幹 今城 茉莉】
4	5月10日 (水)	文化・スポーツについて	スポーツ文化振興部 【スポーツ振興課長 奥村 昌弘】 【文化振興課 文化ホール施設担当主幹 柳原 雄樹】
5	5月17日 (水)	産業振興(商工業／観光)について	商工観光部 【観光振興課長 真田 貴之】 【経営支援課長 杉下 照幸】
6	5月24日 (水)	産業振興(農林水産業)について	農林水産部 【農業振興担当主幹 中西 智徳】 【林業振興担当主幹 松永 邦彦】
7	5月31日 (水)	津市の教育について	教育委員会事務局 【教育推進担当参事(兼)学校教育課長 松本 幸也】
8	6月 7日 (水)	選 挙 に つ い て 、 津市議会傍聴にむけて	選挙管理委員会 【選挙管理委員会 担当副主幹 甲斐 義高】 法経科 教授 石原 洋介

9	6月14日 (水)	都市計画について	都市計画部 【交通政策課 調整交通政策海上アクセス担当主幹 別所 賢一】
10	6月21日 (水)	議会見学 (Web)	
11	6月28日 (水)	環境行政について	環境部 【空地空家等連絡調整担当副参事 前田 健】 【地域脱炭素推進担当主幹 林 邦知】
12	7月 5日 (水)	津市の政策について	政策財務部 【政策課 政策担当主幹 東谷 竹雄】
13	7月12日 (水)	津市の福祉について	健康福祉部 【保健医療助成課 フレイル予防推進担当副参事 (兼)健康づくり課 フレイル対策調整担当副参事 木下 なつこ】
14	7月19日 (水)	参加と協働のまちづく りについて	市民部 【地域連携課 調整・広聴相談担当主幹(兼) 対話 連携担当主幹 瀬古 卓弘】
15	7月26日 (水)	自治体経営 (市長)	市長 前葉 泰幸

(3) 審議会、委員会委員への参画

津市や周辺自治体が直面している諸課題について、本学教員の専門的な知識や経験を活かし、各種審議会や委員会等へ参画し市政との連携を図った。

本学教員の今年度の審議会、委員会等への参画状況は次のとおり

	氏名	委嘱依頼元	委嘱依頼内容	期間又は期日
1	相川 悠貴	国立大学法人三重大学	「スポーツ健康科学b」 非常勤講師	令和5年10月1日～ 令和6年3月31日
2	浅野 和也	三重労働局職業安定部	「若年者地域連携事業の実施に係る協議会」委員	承認日～ 令和6年3月31日
3	浅野 和也	三重労働局職業安定部	「三重県地域職業能力開発促進協議会」委員	承認日～ 令和6年3月31日
4	浅野 和也	三重県雇用経済部	「おしごと広場みえ推進会議」 推進委員	承諾日～ 定める事項が終了した日
5	飯田津喜美	(公財)三重県スポーツ協会	(公財)スポーツ医・科学委員 及び実行委員	令和4年6月14日～ 令和6年6月満了日
6	飯田津喜美	榊原の地域振興を考える会	「榊原地域の魅力創出のための調査研究連携事業実行委員会」委員	就任日～ 令和6年3月31日
7	飯田津喜美	(公社)三重県栄養士会	(公社)三重県栄養士会スポーツ 栄養委員	令和5年5月27日～ 令和7年度定時総会
8	飯田津喜美	(公社)三重県栄養士会	(公社)三重県栄養士会学術部 生涯教育委員会委員・スポーツ 栄養委員会委員	令和3年5月22日～ 2年
9	飯田津喜美	(公社)三重県栄養士会	(公社)三重県栄養士会理事	令和3年5月22日～ 2年
10	石原 洋介	高等教育コンソーシアムみえ	高等教育コンソーシアムみえ産 学官金連携協議会委員	令和5年8月30日～ 令和6年3月31日
11	石原 洋介	津商工会議所	津商工会議所設立130周年記念事業「ビ ジネスアイデアコンテスト」一次審査員	令和5年12月25日 ～令和6年1月5日
12	大畑 智史	三重県出納局	三重県政府調達苦情検討委員会 委員	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日
13	小野寺一成	津市都市計画部	津市建築審査会委員	令和4年1月1日～ 令和6年12月31日
14	小野寺一成	明和町 まちづくり戦略課	明和町都市計画審議会委員	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日
15	小野寺一成	三重県公共事業 総合推進本部事務局	三重県公共事業評価審査委員会 委員	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日

16	小野寺一成	三重県県土整備部	三重県事業認定審議会委員	令和４年９月１９日～ 令和６年９月１８日
17	小野寺一成	三重県県土整備部	三重県開発審査会委員	令和４年９月１４日～ 令和６年９月１３日
18	小野寺一成	四日市市都市整備部	四日市市開発審査会委員	令和４年１１月１日～ 令和６年１０月３１日
19	小野寺一成	津市市民部	市民活動推進事業交付金対象事業 選考懇話会委員	令和５年２月～ 令和６年５月(令和５ 年度事業の期間)
20	小野寺一成	津市都市計画部	エリアプラットフォーム 「大門・丸之内未来のまちづ くり」オブザーバー	令和５年４月１日～ 令和７年３月３１日
21	小野寺一成	津市都市計画部	津駅周辺道路空間再編検討委員 会委員	令和５年４月１日～ 令和６年３月３１日
22	小野寺一成	津市建設部	津駅西口駅前広場エリアマネジ メント会議会員	令和５年９月１３日～ 令和７年９月１２日
23	小野寺一成	津市農林水産部	津市農業振興対策協議会委員	委嘱日より２年間
24	小野寺一成	津市都市計画部	津市建築審査会委員	令和６年１月１日～ 令和７年１２月３１日
25	鎌塚 有貴	鈴鹿市総務部	鈴鹿市個人情報保護審査会委員	令和４年１月１５日～ 令和６年１月１４日
26	鎌塚 有貴	亀山市総合政策部	亀山市行政不服審査会委員	令和４年４月１日～ 令和６年３月３１日
27	鎌塚 有貴	津市教育委員会	津市いじめ問題対策連絡協議会 委員	令和４年８月２０日～ 令和６年８月１９日
28	鎌塚 有貴	津市教育委員会	津市いじめ対策会議委員	令和４年１１月１０日 ～令和６年１１月９日
29	鎌塚 有貴	三重県環境生活部	三重県私立学校審議会委員	令和５年２月１日～ 令和９年１月３１日
30	鎌塚 有貴	鈴鹿亀山地区広域連合	鈴鹿亀山地区広域連合個人情報 保護審査会委員	令和３年１０月１日～ 令和７年３月３１日
31	鎌塚 有貴	鈴鹿市総務部	鈴鹿市行政不服審査会委員	令和５年１０月１日～ 令和７年９月３０日
32	鎌塚 有貴	鈴鹿亀山地区広域連合	鈴鹿亀山地区広域連合情報公開 審査会	令和５年１０月１日～ 令和７年９月３０日

33	鎌塚 有貴	三重県環境生活部廃棄物対策局	三重県自動車廃物認定委員会委員	令和5年12月1日～ 令和7年11月30日
34	川上 哲	国立大学法人三重大学	「政策過程論 / 特殊講義 政策過程論」非常勤講師	令和5年10月1日～ 令和6年3月31日
35	北村 香織	三重県総務部	三重県行政不服審査会委員	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日
36	北村 香織	三重県子ども・福祉部	三重県障害者介護給付費等及び障害児通所給付費等不服審査会委員	令和4年4月1日～ 令和7年3月31日
37	木下 誠一	鈴鹿市都市整備部	鈴鹿市景観審議会専門部会員	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日
38	木下 誠一	鈴鹿市都市整備部	鈴鹿市景観審議会審査部会員	令和5年1月1日～ 令和6年12月31日
39	木下 誠一	津市都市計画部	津市景観アドバイザー	令和5年6月1日～ 令和7年5月31日
40	木下 誠一	津市都市計画部	津市景観審議会委員	令和5年7月1日～ 令和7年6月30日
41	木下 誠一	三重県県土整備部	松阪あゆみ特別支援学校新館棟建築工事設計業務委託に係るプロポーザル方式技術審査委員会委員	許可日～ 令和6年3月31日
42	木下 誠一	(公財)三重県建設技術センター	(公財)三重県建設技術センター理事	令和5年6月15日～ 令和7年度(定時評議員会終結時まで)
43	木下 誠一	松阪市建設部	松阪市景観アドバイザー	令和5年11月1日～ 令和7年10月31日
44	楠本 孝	津市市民部市民交流課	津市国際交流推進基金運営委員会委員	令和4年5月1日～ 令和6年4月30日
45	楠本 孝	津市教育委員会 青少年センター	津市青少年問題協議会委員	令和4年10月1日～ 令和6年9月30日
46	楠本 孝	津市市民部	津市人権施策審議会委員	令和5年1月10日～ 令和7年1月9日
47	駒田 亜衣	(公社)三重県栄養士会	(公社)三重県栄養士会理事	令和5年5月27日～ 令和7年度定時総会
48	駒田 亜衣	(公社)三重県栄養士会	(公社)三重県栄養士会生涯教育委員	令和5年5月27日～ 令和7年度定時総会
49	高橋 彩	四日市市財政経営部	四日市市指定管理者選定委員会委員	令和5年就任の日～ 令和6年3月31日

50	高橋 彩	四日市市市民生活部	四日市市市民協働促進委員会委員	令和 5 年就任の日～ 令和 7 年 3 月 31 日
51	武田 誠一	津市健康福祉部 介護保険課	津市介護保険事業等検討委員会 委員	令和 3 年 10 月 1 日～ 令和 6 年 9 月 30 日
52	武田 誠一	社会福祉法人 津市社会福祉事業団	津市社会福祉事業団評議員	令和 3 年 6 月 24 日～ 令和 7 年定時評議員 会終結の時
53	武田 誠一	三重県子ども・福祉部	三重県障害者介護給付費等及び障 害児通所給付費等不服審査会委員	令和 4 年 4 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日
54	武田 誠一	四日市市健康福祉部	四日市市障害者解消支援地域協 議会委員	令和 4 年 11 月 1 日～ 令和 6 年 10 月 31 日
55	武田 誠一	皇學館大学	「貧困に対する支援」「公的扶助 論」非常勤講師	令和 5 年 9 月 16 日～ 令和 6 年 3 月 31 日
56	武田 誠一	松阪市介護保険課	松阪市福祉有償運送運営協議会 委員	令和 5 年 6 月 1 日～ 令和 7 年 5 月 31 日
57	武田 誠一	学校法人新潟福祉医 療学園日本こども福 祉専門学校	「保健医療サービス」「保健医療 と福祉」レポート添削指導	令和 5 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 31 日
58	武田 誠一	社会福祉法人あゆみ	社会福祉法人あゆみ理事	令和 5 年 6 月定時評議 員会終了日～ 令和 7 年 6 月 30 日
59	武田 誠一	社会福祉法人 津市社会福祉協議会	津市地域福祉活動計画策定推進 委員	令和 5 年 6 月 1 日～ 令和 7 年 5 月 31 日
60	武田 誠一	社会福祉法人 三重県共同募金会	津市共同募金委員会審査委員	委嘱日～ 令和 7 年 3 月 31 日
61	武田 誠一	和歌山県 医療労働組合連合会	「和歌山県医労連地域医療福祉 学習会」講師	令和 6 年 2 月 3 日
62	田添 篤史	三重県農林水産部	「三重県地方卸売市場運営協議 会」委員	令和 4 年 7 月 1 日～ 令和 6 年 6 月 30 日
63	田中 武士	国立大学法人三重大学 大学院医学系研究科	「保健医療福祉行政論」非常勤 講師	令和 5 年 4 月 11 日～ 令和 6 年 3 月 31 日
64	田中 武士	名城大学	「地域福祉論」非常勤講師	令和 5 年 9 月 14 日～ 令和 6 年 3 月 31 日
65	田中 武士	津市健康福祉部	津市福祉有償運送運営協議会委員	令和 5 年 5 月 1 日～ 令和 7 年 4 月 30 日
66	田中 武士	四日市看護医療大学	「健康社会要因論」非常勤講師	令和 5 年 9 月 16 日～ 令和 6 年 3 月 31 日

67	照井 遥瑛	愛知大学	「担保物権法」非常勤講師	令和 5 年 9 月 15 日～ 令和 6 年 3 月 31 日
68	西川 昇吾	三重県総務部	三重県行政不服審査会委員	令和 4 年 4 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日
69	西川 昇吾	三重県雇用経済部	第 4 7 期三重県労働委員会委員	令和 4 年 5 月 1 日～ 令和 6 年 4 月 30 日
70	西川 昇吾	社会福祉法人三重県 社会福祉協議会	三重県福祉サービス運営適正化 委員会委員	令和 4 年 6 月 26 日～ 令和 6 年 6 月 25 日
71	西川 昇吾	三重労働局	第 5 3 期三重地方最低賃金審議 会委員	令和 5 年 4 月 1 日～ 令和 7 年 3 月 31 日
72	西川 昇吾	三重県子ども・福祉部	令和 5 年度こころのバリアフリ ー推進事業講師	令和 5 年 9 月 4 日・ 令和 5 年 9 月 6 日
73	服部 知美	伊勢市教育委員会	伊勢市学校給食運営委員会委員	委嘱日～ 令和 7 年 3 月 31 日
74	古畑 淳	東郷町総務部	豊明市、日進市及び東郷町にお ける行政不服審査会委員	承認日～ 令和 7 年 3 月 31 日
75	村井美代子	三重県総務部総務課	県民功労者選考委員会委員	令和元年 8 月 1 日～ 令和 5 年 7 月 31 日
76	村井美代子	内閣府 男女共同参画局総務課	男女共同参画推進連携会議議員	令和 3 年 8 月 16 日～ 令和 5 年 8 月 15 日
77	村井美代子	文部科学省高等教育局	大学設置・学校法人審議会（大 学設置分科会）委員	令和 4 年 4 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 31 日
78	村井美代子	津市危機管理部	津市国民保護協議会委員	令和 4 年 8 月 1 日～ 令和 6 年 7 月 31 日
79	村井美代子	三重県ユニセフ協会	「三重県ユニセフ協会」評議員	令和 4 年 10 月 1 日～ 令和 6 年 3 月 31 日
80	村井美代子	岐阜市企画部	「岐阜市立女子短期大学将来構 想委員会」委員	選任日～ 令和 6 年 3 月 31 日
81	村井美代子	三重県総務部総務課	県民功労者選考委員会委員	令和 5 年 8 月 1 日～ 令和 9 年 7 月 31 日
82	村井美代子	三重県政策企画部	若者の県内定着・人口還流に向 けた産学官連携懇話会委員	承諾日～ 令和 7 年 3 月 31 日
83	村井美代子	津商工会議所	津商工会議所設立 130 周年記念 事業「ビジネスアイデアコンテ スト」最終審査会審査員	令和 6 年 3 月 18 日

84	笠 浩一朗	津市総務部	津市基盤情報ネットワークシステム更新業務、運用保守業務等に係るプロポーザル方式審査委員会委員	就任日～ 令和 6 年 12 月 28 日
85	笠 浩一朗	四日市市総務部	「よっかいち人権大学ステップアップ講座」講師	令和 6 年 1 月 29 日
86	鷲尾 和紀	津地方裁判所及び津簡易裁判所	民事調停委員	令和 3 年 10 月 1 日～ 令和 5 年 9 月 30 日

5 地域の大学との連携

三重大学やコンソーシアムみえとの連携により、地域の大学の講義に本学学生が参加した。

(1)三重大学生物資源学部との連携 農林体験セミナー

自然環境や農林業に対する理解を深めることを目的に、三重大学生物資源学部の講義を本学学生が受講し、三重大学の学生とも交流を深めた。

ア 農場コース【生物資源学 A】

- ① 月 日：令和5年8月30日（水）～9月1日（金）
- ② 内 容：「土は生きている」をテーマに、水田、畑地、果樹園、茶園、畜産ならびに農産物加工などの学習を通して、土と食糧生産の関係、三重の地域特産物の歴史と現在、食糧を取り巻く世界ならびに国内情勢、食の安全・安心などの農や食について学んだ。

イ 演習林コース【自然科学概論 3】

- ① 月 日：令和5年9月13日（水）～15日（金）
- ② 内 容：「森は生きている」をテーマに、流域環境保全における森林の重要性について現場教育を通して、林業の実態と林産加工の実践について学んだ。

(2)コンソーシアムみえとの連携 単位互換科目

三重県における社会的事象に対する理解を深めることを目的に、コンソーシアムみえの単位互換科目を本学学生が受講し、他大学の学生とも交流を深めた。

ア 食と観光実践【全学共通特別講義 a（四日市大学）】

- ① 月 日：令和5年10月1日（日）、15日（日）、22日（日）、11月18日（土）19日（日）、12月3日（日）、10日（日）、24日（日）
- ② 内 容：三重県における社会的事象（観光客誘致、インフラ整備、事業継続性など）を学び、関連する諸分野の知識を統合することで、理想的な地域の有り様を探究した。

イ 単位互換科目【現代社会理解特殊講義 3（三重大学）】

- ① 月 日：後期 水曜日 計15コマ
- ② 内 容：三重県の経済を支える産業に着目し、その歴史的発展や現状、課題を客観的なデータを用いながら学習した。

6 学生による地域連携

本学では、およそ700人の学生がそれぞれの目的を持って勉学に励みながら、サークル活動や大学行事を通して短期大学生活を送っており、この学生の短期大学生活を通しての地域との連携を地域連携の主体の一つとして掲げている。

今年度「地域連携サポーター」制度に16名の学生の登録があり、このサポーターを中心に、地域の様々なイベントへの学生参加や地域清掃のボランティア活動などに取り組んだ。

また、本学学生が津市消防団学生機能別団に入団し、消防団員として様々な訓練を受けるなどの取組を行った。本年度の団員数は27名であった。

(1) 地域連携サポーター制度

三重短期大学地域連携センターでは、地域連携活動やボランティア活動の情報を希望者に提供する地域連携サポーター制度を実施しており登録学生数は16名であった。

ア 一身田寺内町・環濠・本山境内清掃

- ① 日 時 令和5年5月13日（土）午前9時00分～午前10時00分
- ② 参加者数 25名（学生18名、教職員7名）



(2) 津市消防団学生機能別団員

同団は平成25年度に三重県下初となる学生機能別団として発足し、同団員は、消防講演会等における支援及び広報を行う火災予防活動、災害時における避難所での応急救護、物資配布などの支援などの避難所での活動を行う。

今年度も引き続き募集し、新入生27名が新たに任命され、津市消防団学生機能別団員訓練などの訓練や、津市消防本部が主催する消防出初式に参加した。



(入団式)

(3) 三重短期大学大津波想定避難訓練

近年中に発生が危惧される南海トラフ巨大地震による津波による被害が、本学の所在地域でも予想されることから、学生、教職員合わせて約160名が参加し、高台の避難所である三重県総合文化センターまでの徒歩による避難訓練を実施した。

また、津市消防本部職員の協力を得て、学生機能別団がAEDの使用や人工呼吸などの救急救命の実演、消火器の使用、煙体験ハウス体験などを行った。

- ① 日 時 令和5年4月27日(木) 午前10時00分～午後1時00分
- ② 場 所 三重短期大学及び三重県総合文化センター(祝祭広場)



(煙体験ハウス)



(AED 実習)



(消火器体験)



(徒歩避難訓練)

(4) 美化デー

- ① 日 時 令和5年11月16日(木) 12時30～13時30分
- ② 内 容 市が実施する市民清掃デーにならい、三重短期大学「美化デー」として時期を入試直前に、本学周辺の清掃を学生と教職員とで行った。
- ③ 参 加 数 学生3名・教職員25名 計28名



(5) 榊原の地域振興を考える会との連携

- ①期 間 令和5年5月～令和6年3月
- ②内 容 津市榊原地区の地域活性化の取り組み活動として、郷土料理レシピ開発に連携し、榊原地区の調理団体が調理した郷土料理の試食・意見交換を経て、食メニュー開発に対する助言指導を行った。
- ③参 加 者 食物栄養学科 助教 飯田津喜美 および 飯田ゼミ学生

Ⅱ 資料

1 施設開放

本学では、「地域に開かれた大学」づくりを積極的に推進するために、教育・研究に支障のない限り、大学施設を地域に開放し、住民の皆さんが利用できるように努めている。

体育施設（体育館）については、ヴィアティン三重女子バレーボールクラブとの包括連携協定締結により、協定内容に準じた体育施設の開放を行った。

(1) 図書館

ア 概要

開館日	月曜日～金曜日
開館時間	開講日（講義がある日）…午前8時30分～午後9時00分 休講日（講義がない日）…午前8時30分～午後5時00分
休館日	土曜、日曜、休日、年末・年始（12月29日～翌年1月3日）、毎月月末、その他館長の定める日。また、1月と7月は、利用不可
利用資格	18歳以上の津市在住・在勤・在学者

イ 月別一般登録者数及び閲覧者数

年月	登録者数	未登録閲覧者数
令和5年 4月	0	0
5月	0	0
6月	0	0
7月	0	0
8月	3	1
9月	2	1
10月	1	0
11月	1	1
12月	0	0
令和6年 1月	0	0
2月	0	2
3月	2	1
合 計	9	6

(2) 体育施設（体育館、テニスコート、グラウンド）

ア 概要

開放日	1月5日から12月27日までの間における土、日及び祝日		
開放時間	午前9時00分～午後9時00分		
使用料 (別途、夜間 照明料要)	体育館	午前9時00分～ 午後6時00分	1時間につき 500 円
		午後6時00分～ 午後9時00分	1時間につき 750 円
	テニスコート	午前9時00分～ 午後6時00分	1時間につき 100 円（一面につき）
		午後6時00分～ 午後9時00分	1時間につき 100 円（一面につき）
	グラウンド	午前9時00分～ 午後6時00分	1時間につき 1,000 円
		午後6時00分～ 午後9時00分	1時間につき 1,000 円
利用条件	事前に、津市に在住、在勤、又は在学する者 10 人以上で構成された団体で登録が必要。先に「開放施設使用団体登録申請書」を提出し登録のうえ「開放施設許可申請書」にて申込み		

イ 月別登録団体数及び利用日数

年月	登録団体数	利用日数		
		体育館	テニスコート	グラウンド
令和5年 4月	3	11	0	0
5月	2	11	0	0
6月	1	9	0	0
7月	0	8	0	0
8月	0	19	0	0
9月	1	15	0	0
10月	0	14	0	0
11月	0	11	0	0
12月	0	13	0	0
令和6年 1月	0	10	0	0
2月	0	9	0	0
3月	0	4	0	0
合 計	7	134	0	0

2 三重短期大学地域問題研究所の研究一覧

地域問題研究所では、地域社会の発展、本学の教育・研究の発展に寄与することを目的に研究員（専任教員）が自身の専門分野に近い地域社会に関わる諸問題を調査研究している。

令和5年度は、次のような研究が行われた。

【 2023 年度 研究員 申請一覧 】

●研究員

研究員名	研究テーマ	研究概要
楠本 孝	ヘイトスピーチ刑事規制の保護法益について	ヘイトスピーチの刑事規制は、我が国では、川崎市が嚆矢となり「適法に居住する本邦外出身者」に対する不当な差別的言動を処罰の対象としたが、相模原市では規制対象を人種、民族、国籍だけでなく障害や性的指向、性自認、出身を理由とする不当な差別的言動にまで拡大する条例の制定が検討されている。こうした条例によるヘイトスピーチの刑事規制は、何を保護法益とすべきかについて考察する。
大畑 智史	三重県の広域連携のあり方	日本各地において地方創生の議論が活発であるが、この議論における広域連携の視点は重要性を増すようになってきている。人口減少本格化などの問題を抱える三重県の活性化のため、設立されて10年以上経過した関西広域連合への正式参加などの視点を考慮し、現在の三重県の広域連携のあり方を再検討すべきだと考えられる。本研究では、関西広域連合への三重県の正式参加などの三重県の広域連携の諸形態の経済的効果等についてICTシステム活用や経済促進的租税措置活用などの視点を考慮して分析し、この上で三重県の活性化につながるような本県の広域連携のよりよいあり方を探る。当該分析は、三重県の「南北問題」解消などの三重県の地方創生の議論の際に役立つと考えられる。
鷺尾 和紀	地域密着型スポーツチームにおける試合観戦を通じたファンの生活様式と地域活性化の取組モデル	平成30年6月に津市との間に締結した包括提携協定に基づき、本学と株式会社ヴィアティン三重（以下、「ヴィアティン三重」とする。）のバレーボールチームが連携協定を締結した。本学の提携にあたって、協定の概要に今回の共同研究の狙いになる内容が定められていま

	株式会社ヴィアティン三重の事例を元に	す。5つの概要のうち「①スポーツを基軸とした地域活性化への提携」、「②スポーツを通じた教育・人材育成への連携」、「④相互プロモーション活動による連携」については、ヴィアティン三重が目指す地域密着型スポーツチームに適合するものである。
照井 遥瑛	我が国における共同不法行為論(民法719条1項)の展開過程について	民法719条1項は、複数主体による不法行為(「共同不法行為」)を規律する規定である。同条は、複数の加害者間に行為に関する何らかの関連共同性があることを要件として、加害者各自が被害者の全損害について連帯責任を負う旨規定する。同条の適用を巡っては、1960年代から多く発生した公害事件を機縁として、様々な解釈・議論が判例・学説上盛んに展開され、複雑な様相を帯びてきたという経緯があるが、一般的な傾向としては、判例は被害者保護に資するように、これまで積極的に加害者各自に連帯責任を課してきており、学説もこれを概ね支持してきたといえる。中でも四日市公害訴訟は共同不法行為論による被害者救済法理発展の嚆矢とされている。 四日市公害訴訟は昨年、判決から50年を迎えた。現在、共同不法行為論は我が国の民法学における難問の一つと評されている。本研究では、四日市公害訴訟以前の判例・学説の形成過程を確かめつつ、同訴訟における共同不法行為論の理論的位置付けの見定めを行い、上記難問の根源を追究したい。
相川 悠貴	ウェアラブル生体センサを用いた日常の体調変動の予測	【背景】近年、身体に着用しながら継続的に心拍数や温度を測定することができる機器が発達してきた。その機器により、即時の体調評価が可能になってきたが、まだ予測に用いるまでの利用方法が発展していない。 【目的】ウェアラブル生体センサにより採取した生体データを用いて、日常の体調変動予測方法を作成することである。 【方法】対象者に対し、約1か月間の継続測定を行う。測定期間中、対象者はウェアラブル生体センサを着用し、継続的な生体データを入手する。加えて、生活活動と体調を毎日記録する。 【予想される結果】体調不良が生じる際の、生体データの特異的な変化を発見する。 【本研究の意義】体調不良の兆候が生じた際、事前に休

		養を取るように進言できる知見が得られる。それにより、体調不良による学業や勤務の欠席削減に繋がる。これは、本学学生や三重県内生徒の学力向上や、三重県内勤労者の労働生産向上に繋がる。
高橋 彩	三重県の若者の格差の知覚とシステム正当化	第 58 回大学生生活実態調査（2022 年実施）によると、「日本の未来は明るい」と思わない大学生の率は 75.7%と高く、就職と将来の奨学金の返還について 70%の学生が不安を感じていることが分かった。さらに、大学生はジェンダー平等を達成すべき重要な社会課題ととらえていた。システム正当化理論によると、人は社会にある格差や不平等を知覚したり、無力感が大きくなると、現存する社会的、経済的、政治的制度を批判することよりも、むしろ支持したり正当化しようとすると言われていた。本研究では若者の投票率の低さとシステム正当化との関連を明らかにするため、三重県の若者を対象に質問紙調査を実施する。
武田 誠一	"地域における多様な主体との連携推進の課題	2017年に改正された社会福祉法で、包括的支援体制の整備が市町村の努力義務と規定された。さらに、これを推進するために2020年の同法改正で「重層的支援体制整備事業」（以下、重層事業）も法制化された。なお、重層事業は任意事業として必要だと考える市町村が実施する事業となっており、三重県内では2021年度実施「名張市、伊賀市、伊勢市、鳥羽市、御浜町」、2022年度実施「桑名市、いなべ市、亀山市、志摩市」となっている。 重層事業の実施に当たり、新たな制度やサービスが導入されるのではなく、多様な主体による、主体的な課題解決の取り組みを土台として、身近な圏域でそれぞれが協働していくことが求められている。つまり、地域社会との協働と多機関との協働が柱である。 そのため、本研究では地域に存在する多様な主体の把握を行い、それぞれの活動がどのような特徴を持ち、どのような協働が可能となるのかを明らかにしていく。
田中 武士	介護殺人関連要因の連続性に関する研究	これまで地域社会における介護殺人の防止と課題に関する研究の結果、介護殺人は介護者の介護疲れなど個人的要因のみで発生するわけではなく、5つの介護殺人関連要因が影響を及ぼしていることがわかった。すなわち、①健康・疾病要因、②経済・労働要因、③家族関係

		要因、④社会的関係要因、⑤社会保障関連要因であるが、それらは社会的性格と社会的背景を内包しており、介護殺人を防止するためにはこれら重層的な要因への対応が必要となる。しかし、現段階では各要因の検討にとどまっており、重層的な要因としてとらえた検討が不足していることが課題となっている。
--	--	---

●奨励研究員

研究員名	研究テーマ	研究概要
北村 香織	障害のある人と施設～相模原障害者殺傷事件から考える	2016年7月26日に神奈川県相模原市の障害者支援施設「津久井やまゆり園」で起きた相模原障害者殺傷事件は、社会、障害当事者や家族に対し大きな衝撃と恐怖を与えた。事件から7年。これまで、多くの議論が行われ、論点も示されてきた。とはいえ、この事件は、さまざまな要素がからみあって起きており、それをひもとく作業は容易ではない。考え続けなくてはならないことが多くある。 本研究では、論点のうちの一つ、「障害者施設収容主義」に着目し、日本の障害者政策が障害のある人の生活の場をどのように考えてきたのかを明らかにすることによって、そこに潜む「優生思想」について考察したい。また、相模原障害者殺傷事件は、障害者を標的としたヘイトクライムである。刑法を専門とする本学法経科教員の楠本孝先生に共同研究者として参画いただくことで、「差別」の論理を問い、障害のある人が主権者として暮らしていく具体的な方法を考察したい。

3 令和5年度 三重短期大学出前講座 テーマ一覧表

No	テ ィ マ	概 要	講 師	備 考
1	イギリスの文学や 絵画にみる死生観	「平家物語」などの日本の古典文学に多い、生のはかなさや死への想いは、日本固有のものではありません。イギリスの詩や演劇、絵画の中に死生観をたどり、国や時代を超えた共通の人間の感性に触れます。	学長 村井美代子	
2	「赤毛のアン」を 読み直す	1908年の出版以来、世界中で親しまれている「赤毛のアン」。出版直後から次々に続編が書かれ、仕事を持って結婚し、母になるアンの姿が描かれます。女性が才能を開花させ、仕事と家庭を両立させていくことのむずかしさを、主人公アンの姿と作家モンゴメリの素顔を通して考えてみましょう。	学長 村井美代子	
3	あらすじで読み直 すイギリス小説	「フランケンシュタイン」や「透明人間」、「タイムマシン」、「ガリバー旅行記」など、タイトルが半ば固有名詞化しているイギリス小説は少なくありません。本来のストーリーをたどると、聞き慣れたタイトルから描くイメージとは異なる小説世界が見えてくるかもしれません。	学長 村井美代子	
4	「拘禁刑」とは何 か？	懲役刑、禁錮刑の区別をやめて「拘禁刑」に一本化する刑法改正が2022年6月に成立し、3年以内に施行される見通しです。1907（明治40）年制定の現行刑法最大の改正をどう評価すべきか、考えます。	法経科 教授 楠本孝	
5	ヘイトスピーチに ついて	「ヘイトスピーチ解消法」やヘイトスピーチに対する川崎市など先進自治体の取組を紹介し、憲法との整合性を検証します。	法経科 教授 楠本孝	
6	少年非行について	巷間言われる少年非行の増加、凶悪化、低年齢化は本当か？犯罪統計を基に検証します。 また、18歳19歳を「特定少年」として厳罰化する少年法改正について解説します。	法経科 教授 楠本孝	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
7	虐待から子どもを守る法制度について	厚生労働省の報道発表によれば、令和3年度における児童相談所での児童虐待相談対応件数は20万7660件でした。子どもの健康と生命を守るために法はどのような制度を用意しているのか、そして行政はその制度をどのように活用して子どもを虐待から守っているのかについてお話します。	法経科 教授 古畑淳	高校生可
8	行政法とはどのような法分野か？	いわゆる六法科目には含まれていませんが、行政法は私たちの社会において重要な役割を果たしている法分野です。行政に関する法（行政法）が私たちの生活にどのような関わりを持っているのかを福祉行政を例にお話します。	法経科 教授 古畑淳	高校生可
9	行政のデジタル化	行政のデジタル化などのデジタル改革が進められています。その本質であるDX（デジタル・トランスフォーメーション）とは何か、またどのように行政のデジタル化と向き合っていけば良いのか、その課題について考えます。	法経科 准教授 川上哲	高校生 対応可
10	東京都政とは何か？	東京都は日本で唯一の特別な行財政制度を有しています。通常の道府県と比べて何が違うのか。そしてなぜ東京だけが独特の行財政制度を有しているのか。東京一極集中が進む中で、改めて「東京」とは何かを考えます。	法経科 准教授 川上哲	高校生 対応可
11	知っておきたい契約に関するルール	民法には私達が実生活でよく遭遇する契約トラブルを解決するためのルールが数多く存在します。お茶を買ったはずなのに袋を開けるとジュースが入っていた、テレビを買ったら画面にひびが入っていた、友人からの儲け話に乗ったらお金を騙し取られてしまった、といったような具体例を挙げながら民法による契約トラブルの解決について解説します。	法経科 講師 照井遥瑛	高校生 対応可
12	知っておきたい相続に関するルール	民法には私達がいずれは関わることになる相続についてのルールが数多く存在します。相続分、遺言、遺産分割、遺留分といった重要なルールを中心に、具体例を挙げながら民法による相続トラブルの解決について解説します。	法経科 講師 照井遥瑛	高校生 対応可
13	基本的人権の保障	日本国憲法において保障される基本的人権について、その種類や性質について解説します。	法経科 講師 鎌塚有貴	高校生 対応可

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
14	選挙権について	国家と市民の関係について、選挙権をキーワードに考えます。	法経科 講師 鎌塚有貴	高校生 対応可
15	ワークルールと権利意識	労働条件の引下げやリストラ、ハラスメントなど、職場での問題が地域の問題の一つとして挙げられます。このような問題に直面した際、立ち往生や泣き寝入りせざるをえない人も、少なくないのではないでしょうか。本講座では、重要なワークルールと、それを支える権利意識をもつことについて、考えます。	法経科 講師 西川昇吾	
16	労働組合の活用法	私たちの国の最高法規である日本国憲法は、勤労条件に関する基準を法律で定めること（27条2項）で十分とするのではなく、勤労者の団結権・団体交渉権・団体行動権（28条）をも保障しています。本講座では、労働組合を活用し、自分自身でも、よりよい職場を形成するためのルールについて、考えます。	法経科 講師 西川昇吾	
17	WTO と FTA	世界の貿易ルールを決める WTO（世界貿易機関）は機能不全に陥って久しく、その穴を埋めるように FTA（自由貿易協定）が数多く作られました。TPPをはじめとする FTA は日本の産業と経済にどう影響するのかを解説します。	法経科 教授 石原洋介	
18	日本銀行の異次元金融緩和と円安？	2022 年は歴史的な円安のため、エネルギー・食料など輸入依存度の高い品目を中心にインフレが進みました。円安の背景には日銀と海外の対照的な金融緩和政策があります。なぜ、日銀の金融政策は欧米と大きな差が出たのかを解説します。	法経科 教授 石原洋介	
19	フェアトレードの挑戦	長年の先進国や国際機関からの援助にもかかわらず、世界にはまだ多くの貧しい人々が存在します。近年注目を集める、公正な取引を通じて貧困問題を解決する手法、フェアトレードについてお話します。	法経科 教授 石原洋介	高校生 向け
20	税とは何か	税金は、われわれの日常生活に非常に密接な関わりがあります。本講義では、なぜ課税されるのか、など、税金に関する根本的な考え方について分かりやすく解説します。	法経科 教授 大畑智史	後期 不可

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
21	税制における ICT 活用	日本でも税制における ICT 活用が本格化してきています。本講義では、そうした ICT 活用に関する、現状と今後の課題とについて、記入済み申告制度、マイナンバー制度、などの視点を込めて分かりやすく解説します。	法経科 教授 大畑智史	後期 不可
22	消費税増税の性質を理解する	消費税増税は日本でもよく議論されています。本講義では、租税負担の公平性の視点からみた消費税増税の性質などのその各種性質を、消費税の歴史、消費税の構造、などの視点を込めて分かりやすく解説します。	法経科 教授 大畑智史	後期 不可
23	内部留保の経営分析	近年、企業の内部留保が拡大しています。決算書の読み方の基礎から講義をはじめ、企業の内部留保とは何か？なぜ増加しているのか？研究データとともに解説します。	法経科 教授 田中里美	
24	決算書の読み方	企業の決算書の読み方を講義します。身近な企業の決算書をみんなで読んでみましょう。	法経科 教授 田中里美	高校生 対応可
25	応能負担という考え方	新型コロナウイルスの蔓延により、多額の税金が使われています。今後、増税が予定されています。どのように税金を徴収することが望ましいのか、応能負担という考え方に基づいてみんなで考えてみましょう。	法経科 教授 田中里美	
26	日本の社会的統合の在り方	どのような社会であれ、その社会が安定するには一定の形で社会全体が統合されている必要があります。日本はどのような形でそれを行ってきたか、そしてどのように変化しているのかをお話しします。	法経科 准教授 田添篤史	
27	経済学とは何か	経済学にはいくつかの学派が存在します。それぞれがどのような特徴をもっているのかを、経済学の歴史を振り返りながら解説します。	法経科 准教授 田添篤史	
28	私たちの生活と「働く」こと	現在、労働を取り巻く環境は大きく様変わりしています。生活と密接な関係にある「働く」ことについて変化の推移をたどりながら、問題や課題について考えたいと思います。	法経科 准教授 浅野和也	高校生 対応可
29	経営学とは何か	経営学は主に企業を対象にした学問です。企業活動から見える社会の成長や生活への影響について考えてみたいと思います。	法経科 准教授 浅野和也	高校生 対応可

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
30	サービスマーケティング ーサービスとは何かー	近年サービス業の増加により、目に見えないサービス商品の提供が増加しています。そこで企業はマーケティング戦略において「サービスとは何か」考える必要があります。サービス業において様々な事例を使って説明していきます。	法経科 講師 鷺尾和紀	高校生 社会人
31	10代から学ぶパーソナルファイナンスーライフプランを考えようー	将来自分はどうなりたいのか。生活していくにはさまざまな費用がかかってきます。自分の将来設計を考えながら生活費用にかかわる話をしていきたいと思います。	法経科 講師 鷺尾和紀	高校生 向け
32	マーケティング戦略ーブランド論ー	皆様がよく手にするブランド品、これはマーケティングでいう商品開発から派生しています。その本来のブランドの意味を説明していきます。また「地域ブランド」と呼ばれているものも取り上げます。	法経科 講師 鷺尾和紀	高校生 社会人
33	音楽を通してみるドイツ語の詩	ゲーテの詩をもとシューベルトが作曲した歌曲『魔王』は非常に有名で、音楽の授業で聴いたことがあるかもしれません。しかしこの他にも様々な『魔王』が存在します。この詩と歌曲の成立についての解説と歌曲の鑑賞を通してドイツ語と音楽の響きとリズムを味わいたいと思います。	法経科 准教授 今本幸平	
34	ドイツ詩を通して見る社会	文学作品には「浮世離れ」したものも多くみられますが、フィクションの世界を描いたように見える作品からも、書かれた当時の社会の様子を読み取ることができる作品もあります。19世紀の詩人ヴィルヘルム・ミュラーの『冬の旅』という連作詩を題材として、当時のドイツ社会について解説します。	法経科 准教授 今本幸平	
35	ビタミンとミネラルの話	食品中には、いろいろなビタミンやミネラル（無機質）が含まれています。食生活を豊かにするためには、それらの栄養素の働きを知ることは大切です。各ビタミンとミネラルについて、体内での働きや多く含まれる食品についてわかりやすく解説します。	食物栄養学科 教授 橋本博行	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
36	いろいろな食中毒と予防方法	食中毒として、カンピロバクターなどの食中毒菌やノロウイルスが原因のものがあります。一方、ジャガイモの芽などの動植物に含まれる自然毒が原因の食中毒もあります。安全な食生活を送るために、具体的な食中毒の事例と予防方法について説明します。	食物栄養学科 教授 橋本博行	
37	世界の食事パターンと疾患との関連について	世界で健康的だと考えられている食事パターンには、地中海食や和食などがあります。世界各国の食事パターン別による疾患との関連について最近の研究成果を示し、より望ましい食事パターンについて考えていきます。	食物栄養学科 教授 阿部稚里	
38	食事をバランスよく食べよう！	食事と健康の関係について最近の研究成果を示し、食事の重要性について考えます。さらに食事バランスガイドを使って自分の食事内容を見直し、バランスのよい食事を目指します。	食物栄養学科 教授 阿部稚里	
39	栄養士・管理栄養士とは？	栄養士・管理栄養士の仕事内容、栄養士・管理栄養士の活動の歴史など、栄養士や管理栄養士が身近に感じられるようなお話です。 栄養士を目指す学生に、本学食物栄養学科の講義内容や在学生の様子なども合わせて紹介します。	食物栄養学科 教授 阿部稚里	高校生 対応可
40	特定健診受診のすすめと地域の健康課題	平成 20 年から始まった特定健診、いわゆる「メタボ健診」。津市では毎年約 18,000 名近くの方が受診されていますが、どの検査項目が良好で、どの検査値が要注意なのか、実際のデータ解析から分かった津市の特徴などをお示しし、健康課題について考えます。	食物栄養学科 准教授 駒田亜衣	
41	海外での栄養士活動	開発途上国で JICA 青年海外協力隊の栄養士として過ごした 2 年間の活動を報告します。 ドミニカ共和国と日本の違い、栄養士として活動する中で工夫した点、その他、国の様子や現地の人との生活、食習慣などについてご紹介します。	食物栄養学科 准教授 駒田亜衣	高校生 対応可

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
42	三重県の食状況について	三重県民の食事の状況はどう変わってきたのでしょうか？これまでに実施された県民健康・栄養調査の詳細な解析結果について、全国とも比較しながらご紹介します。不足している食品は何か、摂り過ぎに気を付けるべき栄養素は何かなど、問題点や課題について一緒に考えたいと思います。	食物栄養学科 准教授 駒田亜衣	
43	健康のための運動と食事	健康に生活するため、運動と食事は重要です。運動と食事が、脳、筋、脂肪、骨などに及ぼす影響について説明し、身体を強くするために取り組んで頂きたい活動について紹介します。	食物栄養学科 准教授 相川悠貴	高校生 対応可
44	競技力向上のための栄養	スポーツの競技力を向上させるために、栄養は重要です。競技や目指す身体によって、理想の食事や栄養補給方法は異なります。「バランスの良い食事をしましょう。」に留まらないお話をしていきます。	食物栄養学科 准教授 相川悠貴	高校生 対応可
45	骨の健康を守るために	骨量は年齢とともに減少し、骨折しやすい状態になります。特に女性はホルモンの変化により骨量の減少が顕著です。骨の健康を維持するための食習慣、生活習慣についてお話しします。	食物栄養学科 講師 杉野香江	高校生 対応可
46	自分に必要な栄養量を考える	人はそれぞれ必要なエネルギーや栄養素の摂取量が異なります。理想的な体重や、厚生労働省による日本人の食事摂取基準を確認しながら、自分に必要な栄養と食事、さらに健康づくりについて一緒に考えます。	食物栄養学科 講師 杉野香江	高校生 対応可
47	減塩生活のすすめ	近年、生活習慣病は増加の一途をたどり、食による健康保持・疾病予防の必要性が高まっています。 試験紙やデジタル塩分計を用いて、普段食されている汁物中の食塩摂取量を推定することで、ご自身の食生活を振り返ってみませんか。	食物栄養学科 助教 飯田津喜美	高校生 対応可
48	食物からの DNA 抽出実験	身近な食材（鶏レバー等）から DNA を抽出して白い糸状の沈殿を観察してみましょう。（時間に応じてパワーポイントスライドを併用し実験操作を短縮することも可能です。）	食物栄養学科 助教 飯田津喜美	高校生 向け

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
49	保健機能食品を利用してみよう	健康の維持増進の観点から、国の管轄のもと販売されている保健機能食品のうち、主に「特定保健用食品」「機能性表示食品」について概説しながら、レシピ等日常生活での活用方法を提案します。	食物栄養学科 助教 服部知美	
50	腸内細菌叢とは？	最近、腸活が話題ですが腸内細菌叢についてどこまで調査がなされているのか、本当に変わるのかを最新の研究結果を踏まえてお話しします。	食物栄養学科 助教 福安智哉	
51	ユニバーサルデザインのまちづくり	ユニバーサルデザインの考え方を学びながら、誰もが暮らしやすいまちづくりには具体的にどのような方法があるのかを考えます。同時に「障がい」とは何かについても一緒に考察できればと思います。	生活科学科 准教授 北村香織	高校生 対応可
52	社会福祉のしくみ	社会福祉は、一般的に「思いやり」や「やさしさ」という言葉で語られがちですが、社会福祉とは、「健康で文化的な最低限度の生活」を守るための、具体的な制度やサービスとして存在しています。 社会福祉のサービスや制度について、歴史をひもとき、実際の制度を紹介しながら考えます。	生活科学科 准教授 北村香織	高校生 対応可
53	病院で「もうすぐ、退院です」と言われて慌てないために…	高齢化による医療費増加に伴って、入院期間は短縮される一方です。しかし、そのことは本人・家族が入院して初めて直面する課題となっています。スムーズな退院を実現するために、何をすべきか、事前に知っておきませんか？	生活科学科 准教授 武田誠一	
54	ソーシャルワーカーという仕事	ソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士）とは、どのような仕事なのか？活躍するフィールドを示しながら、その役割を詳しく説明していきます。	生活科学科 准教授 武田誠一	高校生 向け
55	地域で高齢者の生活を支えるために、私たちができること	国は「自助・互助・共助・公助」による地域包括ケアシステムの整備を進めています。特に近隣住民による「互助」が強く求められています。そこで、私達の地域で何が可能か考えてみませんか？	生活科学科 准教授 武田誠一	
56	人を援助する「私」を知る	地域で福祉ボランティアを始める際に理解しておくべき、対人援助場面でのコミュニケーションのあり方、心構えなど学びます。 そして、他者を支援する「私」を知ることの重要性を考えていきます。	生活科学科 准教授 武田誠一	

No	テ　　ー　　マ	概　　　　　要	講　　　師	備　　　考
57	援助のキホーンー専門職の援助観を考えるー	この講座は、対人援助の現場で働く方向けに、人を支援する専門職の援助観を考えていくものです。 施設、事業所内での職員研修などを想定しています。	生活科学科 准教授 武田誠一	
58	社会福祉の楽しさを知ろう	皆さんは、社会福祉と聞くとどのようなイメージを抱くでしょうか。子どもや高齢者、障がいのある人などの各分野の枠を超え、社会福祉とは何かについて、楽しく一緒に考えます。	生活科学科 講師 田中武士	高校生 対応可
59	安心できる生活のために～社会保障制度を知ろう～	現代社会における私たちの日々の暮らしは、病気や失業などをきっかけに生活が困難になってしまう可能性が常にあります。そのようなときでも、人間らしい生活を保障するのが社会保障制度の役割です。とても大切なこの制度について、生活保護を中心にやさしく解説します。	生活科学科 講師 田中武士	高校生 対応可
60	心理学的観点から道徳について考えよう	私たちの暮らす社会は、犯罪や迷惑行為など「悪い」ニュースにあふれている一方、人道的支援やボランティアなど「善い」行いも多く行われています。具体的な課題や身近な話題を通して、心理学の観点から道徳的判断の起源や個人差を考えていきます。	生活科学科 准教授 高橋彩	高校生 対応可
61	自分はどんな性格なの？ パーソナリティ心理学	パーソナリティテストを用いて、自分自身の性格を測定し、自己理解に役立てます。そうしたテストがどのような理論に基づいて作成されているのかも解説します。	生活科学科 准教授 高橋彩	高校生 対応可
62	生物多様性を考える	生物多様性の破壊は、地球温暖化問題と並んで、人類にとっての最重要課題となっています。震災と原発事故以降注目されることが少なくなったようですが、問題の重要性や深刻さが解消されたわけではありません。 「生物多様性とは何か」「なぜ保全が必要なのか」「何が求められているのか」といったテーマについて解説します。	生活科学科 教授 南有哲	高校生 対応可

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
63	外来生物問題の環境倫理	生物多様性を脅かす要因の一つとして外来生物問題が注目され、関連する法制度の整備や駆除の取り組みも進んできました。またこの問題は、自然と人間の関係にかかわる多様な論点を提示してくれます。外来生物問題について「環境倫理学」の観点から考えていきます。	生活科学科 教授 南有哲	高校生 対応可
64	共に住まう集合住宅	家族や近隣との関係が希薄になり、子育てや介護の不安などから共に住まうことの価値が見直されています。このような集合住宅の特徴について紹介します。	生活科学科 教授 木下誠一	
65	高齢者の住まい	高齢者の方が心身の状況に応じた住まいを確保し、生活支援や介護サービスなどを利用しながら安全で快適に暮らせる住まいについて考えます。	生活科学科 教授 木下誠一	
66	コミュニティと住民参加	全国各地で住民参加のまちづくりが取り組まれており、少子高齢化や人口減少化の時代に、その必要性が問われています。木造密集市街地の住環境整備と公営住宅の建替え事業や公園づくりのワークショップを事例に、コミュニティの形成などに向けた、住民主体のまちづくりの大切さについて考えていきます。	生活科学科 教授 小野寺一成	高校生 対応可
67	まちづくりと都市計画 ～持続可能な多核ネットワーク型コンパクトシティの形成に向けて～	まちづくりという言葉はよく耳にしますが、その基本となる都市計画についてはあまり知られていません。日本における都市計画とまちづくりの変遷を解説しながら、都市づくりやまちづくりに必要な都市計画法・制度等についてやさしく紹介します。 また、人口減少化時代における持続可能な多核ネットワーク型コンパクトシティの形成に向けた取り組みを考えていきます。	生活科学科 教授 小野寺一成	
68	まちづくりと景観計画	全国各地で都市景観の乱れが進行している中、環境問題や生活の豊かさへの関心の高まりとあわせて、都市景観づくりに対する市民の意識が高まっています。ここでは、魅力あるまちづくりの一環としてアーバンデザインの考え方やまちづくりと景観計画について紹介します。	生活科学科 教授 小野寺一成	

No	テ ー マ	概 要	講 師	備 考
69	コンピュータが人間の言葉を処理する仕組み	近年、ChatGPT のような AI チャットボットが注目を集めています。コンピュータがどのように言葉を処理しているのか、文字コードなどの基本的なことから ChatGPT のような最新の技術まで紹介します。	生活科学科 准教授 笠浩一朗	高校生 対応可
70	プログラミング教育で何が変わるのか？	プログラミング教育の必修化により、プログラミングへの関心が高まっています。 プログラミング教育とは、どのようなもので、どのような能力が身に着くのか解説します。	生活科学科 准教授 笠浩一朗	高校生 対応可
71	人工知能の現状と近い将来	コンピュータの誕生後、人工知能（AI）の研究が盛んに行われ、3回ほど A I ブームがありましたが、社会を大きく変えるほどの影響はありませんでした。しかし、今回の第4次 A I ブームは、社会を大きく変えようとしています。今の A I ができること、近い将来起こることについて紹介します。	生活科学科 准教授 笠浩一朗	高校生 対応可

2023年度(令和5年度)
三重短期大学地域連携センター年報
令和6年8月

発 行 津市立三重短期大学 地域連携センター
〒514-0112 三重県津市一身田中野 157 番地
TEL 059-232-2341 FAX 059-232-9647
E-mail 232-2341@city.tsu.lg.jp